

平成24年3月20日発行 編集発行人：近藤 由利子
 発行：一般社団法人 日本女性薬剤師会
 東京都墨田区太平3-1-1坂部ビル2階 Tel 03-3621-0489 mail:jwpa@khh.biglobe.ne.jp www.jyoyaku.net

あいさつ



一般社団法人 日本女性薬剤師会
 会長 近藤 由利子

組織と女性薬剤師ならではの取り組みの模索

平成23年3月11日東日本大震災において被災地薬剤師の方々にたいしての募金活動に、多くの会員にご協力賜り心より御礼申し上げます。
 日本女性薬剤師会の活動のモットーは常に和の精神を持ち、スピーディーに女性の視点で地域社会に対応する、組織構成も老・壮・青で、調和・バランスをとり、組織の活性化・裾野を広げ、会員相互の連携を図る組織活動が重要であるとしてます。
 平成23年8月6日、青森県女性薬剤師会担当で第9回日本女性薬剤師会移動セミナーが開催され余震のつづく状況にもかかわらず、全国から大勢の会員が集り、「祈り・愛・団結」～国家的危機から学ぶ～をメイン・テーマに掲げ、シンポジウム「そのとき薬剤師は何か

できたか!」を通して各都道府県女性薬剤師が連携し、団結する組織が日本女性薬剤師会です。平成23年度事業計画推進の基本方針、各部会活動の概要を示しその成果が現れ始めています。女性は生命を産み育てる性として、生命の誕生から次世代へ繋ぐ重要な役割を担うために備わった男性にはない感性と、最新の医療を学び社会貢献を志す強い意志を持っています。平成23年度学術講演会では、女性のライフステージでその感性と献身で、より添える、「胎児から終末期までの栄養や環境問題」を取り上げ研鑽を重ねています。
 女性薬剤師は在宅医療・保健活動など、地域住民と多面的に接触できて、より広範な社会的貢献ができることがあります。災害時の活躍など分野は多岐にわたります。平成23年度、人(患者)の急変・救急時のフィジカルアセスメント研修は基本技能習得のためにも重要です。女性薬剤師として女性を支援し、次世代社会の健全な発展のためにも、関連分野医学会との連携、女性医学領域を深く究めるべき時期に至っていると考えます。

第10回 移動セミナー in 愛媛

保健・医療・福祉の架け橋になろう
 ～媛の国から未来に向けての発信～

平成24年度の移動セミナーを愛媛県松山市(道後)で開催します。このセミナーでは、男女の別なく広く薬剤師や薬学生、医療関係者に参加を呼びかけ、記念講演、特別講演、基調講演、シンポジウムを行います。地域医療連携や在宅医療の現状と課題に向き合い、医師・薬剤師等医療従事者、患者、国民、行政の視点から発表、意見交換できる場になりたいと考えています。また、交流会や伊予路の旅の企画もし、全国より多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

愛媛県女性薬剤師会 会長 渡部シゲ子

日 時 平成24年11月4日(日) 9:30～16:30開催
 会 場 松山市立子規記念博物館 松山市道後公園1-30
 交流会 11月3日(土) 18:00～20:30 道後温泉「ふなや」にて開催
 申込方法 ホームページからご案内 <http://jyoyaku.net>

移動セミナー報告

青森県女性薬剤師会会長 金田一成子

平成23年8月6日(土)、第9回日本女性薬剤師会移動セミナーが青森にて開催されました。南は熊本県をはじめ全国18都府県から141名の方々にご参加いただき、会場は皆様の熱い思いでいっぱいでした。東日本大震災の被害の大きさに、中止するか悩みましたが小規模でもよいので東北が頑張っている姿をみてもらいたいと、青森県女性薬役員一同急遽企画を立て直しました。従来「在宅医療・チーム医療」がテーマだった移動セミナーですが、今回は「祈り!愛!団結!」～国家的危機から学ぶ～をメイン・テーマに掲げ、「そのとき薬剤師は何かできたか!」をシンポジウムの論点としました。新潟県が新潟中越



セミナーで発表をした皆様

越大地震における活動報告を、宮城県・福島県・秋田県・青森県が東日本大震災における活動報告をしたシンポジウムでは、活発な意見交換が行われ、東北から遠く離れた地の方々も、現場のすさまじさを実感されたことと思います。青森県も秋田県も支援に入った薬剤師の3分の1は女性でした。「女性薬剤師」だから相談にきたという事例がいくつか報告され、薬剤師は女性という特質を発揮でき



セミナーでコーディネーターを務めた金田一成子先生

平成24年度 行事予定

- | | |
|-----------|--|
| 4月 | ●平成24年度 通信研修講座「診療ガイドライン薬剤コース」開始 |
| 6月16日(土) | ●平成24年度 第1回定時社員総会
●一般社団法人特別講演会
●功労賞・学術奨励賞表彰式の開催
●一般社団法人会員交流・懇談会 |
| 6月17日(日) | ●学術講演会 |
| 11月 3日(土) | ●第10回 移動セミナー in 愛媛 交流会 |
| 11月 4日(日) | ●第10回 移動セミナー in 愛媛 |

功労賞

平成22年度 功労賞受賞

手取屋 瑞子 (73歳) 北陸信越ブロック: 石川県
 石川県および金沢市薬剤師会の副会長を務め、女性薬剤師の地位向上、薬剤師職能の向上に貢献された。学校薬剤師としても地域に貢献され、日本女性薬剤師会および石川県女性薬剤師会の発展・運営に寄与し、後輩の育成にも尽力された。労働大臣表彰をはじめ各種受賞されている。



妻鹿 久仁子 (64歳) 四国ブロック: 香川県
 昭和52年より今日まで長期にわたり、女性薬剤師の地位向上に努力を重ね、後輩の育成にも熱心に取り組んで頂いた。平成10年より香川県薬の理事、日薬代議員、日薬DEM委員など要職を歴任され、女性医師との交流を図り、質の高い女性薬剤師会の研修会を主宰されている。



川原田 里子 (73歳) 九州ブロック: 佐賀県
 昭和41年に開局された薬局では相談業務を主として地域への奉仕活動しながら住民の健康増進に貢献された。学校薬剤師としても薬物乱用防止推進員を長い間務められ尽力された。女性薬剤師のための研修会開催や会員の指導に努められ、女性薬剤師の地位向上に努められた功績は大きい。先生の温厚な性格と責任感の強さから、県薬剤師会の部会としての位置づけを確立された。各種受賞されている。



本年度より学習内容がリニューアル。
 従来の学習に新シリーズを追加、さらに充実します。

新シリーズ1 症候別アプローチ

新シリーズ2 もう一度剤形を学ぼう

この講座は、薬剤師・医療を取り巻く環境の変化に対応した新しいエビデンスに基づく診療ガイドラインを学ぶとともに、かつて学んだ知識を時代のニーズに合った形で復習できるものです。ガイドラインと薬物療法の履修により、基礎力の養成を行い、よりよい服薬指導、セルフメディケーションのためのアドバイスにも役立ちます。

チーム医療にも役立ちます!

学習スケジュール	学習スケジュールは予告なく変更する場合があります。
平成24年 4月	甲状腺：今、原発の影響を考える
5月	睡眠時無呼吸症候群：セルフケアの重要性
6月	リウマチ：早期診断と医療者の連携
7月	小児呼吸器：初期抗菌薬療法の重要性
10月	胃がん：補助化学療法の向上を目指して
11月	脳卒中：リハビリテーションと薬物療法
12月	てんかん：基本薬の使い方と切り替え薬
平成25年 1月	めまい：基本は薬物療法

※8・9・2・3月はスクーリング講座への出席と復習にあてて。

詳しくはホームページをご覧ください www.jyoyaku.net

平成24年度 診療ガイドライン・薬剤コース

女性薬剤師リーダーズネットワーク(起業家支援)

講師 田城孝雄先生



2012年2月19日、すみだ女性センターにて田城孝雄先生の講演を聞きました。先生は尾道市と神奈川県の在宅医療連携の実態を長年に渡って調査をされました。その結果、「意識の違い」「関わり方」「中心になる方」によって、大きな差が生じるというデータを収集し、そのデータをもとにお話をされました。尾道は医師が中心の医療依存度が高い在宅ケアを実地しているが、神奈川では福祉依存度が高く、医療が踏み込めない状態で薬剤師が在宅に参入できなかった理由が分かりました。24年4月からの医療と介護の制度「地域包括ケア」へ期待もあるが、医療依存度の高い高齢者を地域で見ていくためには、我々薬剤師も力を合わせて取り組まなければ、在宅医療チームから外されてしまう可能性もあると危機感をもちました。私も「薬局のハブ化」について話す機会をいただきました。ケアマネ薬剤師の活用を推進し、病院から地域に戻る高齢者のコーディネートを薬局が中心になってやること、また、医薬品・医療・衛生材料の供給・高度管理機器の販売・レンタルができるよう関係者に働きかけ、実践していくことが私達の使命であると話しました(神奈川県 渡辺 陸子)。

講師プロフィール
 内閣官房地域活性化統合本部 地方の元気応援人材ネットワーク健康・医療のまちなかづくりに関する有識者・実務者会合 座長
 環境未来都市評価・調査検討会 委員
 構造改革特別区域推進本部 評価・調査委員会医療・福祉・労働部会 専門委員
 厚生労働省 地域医療再生計画に係る有識者会議 委員
 医学博士



学術講演会

一緒に考えよう、生命の贈りもの、誕生から再生まで

現在、国の支援もあり、不妊症治療は飛躍的に進んでいるが、費用や倫理的な問題を見逃せません。一方、医学は進歩したが、薬や手術などでは治療できず、臓器移植でなければ治療ができない病に苦しんでいる人がいます。多くの課題がある「不妊治療」と「移植医療」を著名な先生方に学びましょう。

最近の医療行政について

厚生労働省 大臣官房審議官 平山 佳伸 先生

生殖医療の現状と問題点 現代女性のリプロダクティブヘルスとART
 医療法人財団順和会 山王病院 院長・リプロダクションセンター長 堤 治 先生
 元東宮職御用掛 前東京大学医学部教授

死を生に繋ぐ臓器移植

(社)臓器移植ネットワーク広報・普及啓発部長(薬剤師) 雁瀬 美佐 先生

我が国における臓器移植の現状と展望
 大阪大学医学部附属病院 心重症臓器不全治療学寄附講座 教授 福高 教偉 先生

ランチョンセミナー わが国における小児腎移植の現状と課題 中外製薬(株) 移植者から受ける「いのちの授業」/ハルティスファーマ(株)

展示 ポスターで広げよう 女性薬剤師のネットワーク

主 催 一般社団法人 日本女性薬剤師会
 日 時 平成24年6月17日(日) 9:30～16:00開催
 会 場 星薬科大学 メインホール 東京都品川区荏原2-4-41
 対 象 全国の薬剤師・薬学生
 申込方法 ホームページからご案内 <http://jyoyaku.net>

活動スナップ

日本女性薬剤師会は、地域を支える医療人の育成、より働きやすい環境づくりの確立、生涯を通じて学ぶ機会の提供など、さまざまな活動を行っています。

東日本大震災 支援活動

2011.5.15 上野 朝子、渡辺 陸子、渡辺 悦子

- 8:12 東京発「はやて」にて仙台へ
- 10:20 宮城県女性薬剤師会と面談
- 11:44 仙台発「Maxやまびこ」にて福島へ
- 12:12 福島にて福島県女性薬剤師会 会長 初澤先生方が同乗し車中にてお見舞い金を渡す
- 13:50 上野着 待ち時間に初澤先生と面談
- 14:30 上野発「フレッシュひたち」にて水戸へ
- 15:45 茨城県女性薬剤師会 会長 本多先生ほか9名の会員と面談および情報交換
- 16:52 水戸発「フレッシュひたち」にて上野へ
- 18:07 上野着 上野先生は愛知県へ、渡辺(悦)先生は富山へ帰路につく



▲写真上:茨城県にて。茨城県は震災の報道が少ないので被害が少ないと思いましたが、水戸について歩道橋や駅前の被災状況を見て驚きました。
▲写真左:福島にて。新幹線に初澤会長と会計の担当者が同乗し、お見舞い金を受け取っていただきました。



▲写真上:5月27日、近藤会長が千葉県女性薬剤師会会長 榎方先生と面談し、お見舞い金を受け取っていただきました。

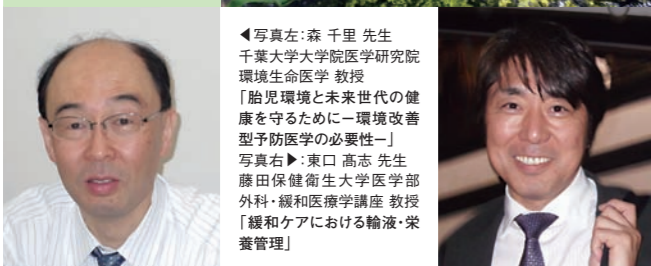


移動セミナー in 青森

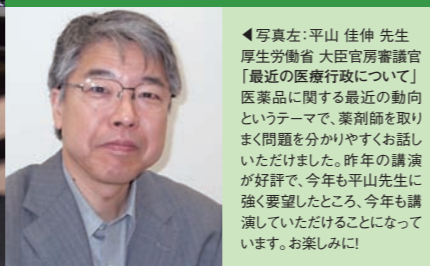
2011.8.6

青森グランドホテルにて「第9回移動セミナー」が開催されました。南の熊本県を含め全国18都府県から141名の方々にご参加いただきました。「祈り!愛!団結!」～国家的危機から学ぶ～をテーマに、会場は皆さまの熱い思いでいっぱいでした。

大会終了後「せっかく青森にきたのだから」と「弘前観光」「浅虫温泉」奥入瀬で秘湯に一泊の3班に別れて出かけました。



▲写真左:森千里先生 千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学 教授 「胎児環境と未来世代の健康を守るために～環境改善型予防医学の必要性～」
写真右▶:東口高志先生 藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座 教授 「緩和ケアにおける輸液・栄養管理」



▲写真左:平山佳伸先生 厚生労働省 大臣官房審議官 「最近の医療行政について」 医薬品に関する最近の動向というテーマで、薬剤師を取りまく問題を分かりやすくお話しいただきました。昨年の講演が好評で、今年も平山先生に強く要望したところ、今年も講演していただけることになっています。お楽しみに!



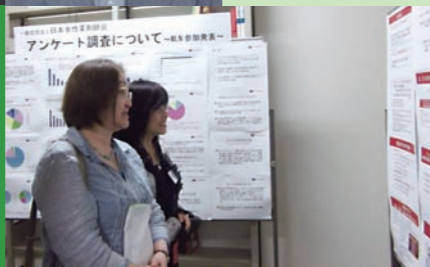
学術講演会

2011.6.19

演題: もっと学ぼう栄養と疾患 胎児～終末まで

星薬科大学メインホールにて「2011年度学術講演会」が開催されました。今年は約500名もの会員や学生にご参加いただきました。

▲写真上:小宮ひろみ先生 福島県立医科大学医学部 准教授 性差医療センター部長 「若年女性におけるダイエットの功罪」



▲写真上:「女性の意識に関するアンケート結果」や「APECのポスター」を展示しました。ポスター展示は今回初めての試みでしたが、好評だったので今年も「ポスターで広げよう女性薬剤師のネットワーク」の題目で実施します。写真右▶:通信講座「在宅専門薬剤師への道」や「日女薬新聞」を手にとってご覧いただきました。



ファシリテーターの一部は、昨年のJWPAフィジカルアセスメント講習会の参加者であったが、タイムキーパーならびに受講者グループの調整役を担いながら自己研修を行ったことは、フィジカルアセスメント技能の更なる研鑽に繋がったとともに、今後の講習会企画等に有用な情報を得たとのコメントが得られた。



フィジカルアセスメント 実習研修

2011.1.22

受講者31名、県女薬から推薦されたファシリテーター計10名の事前登録者全員が出席し、平成24年1月22日(日)午前9時30分に開会し、午後5時30分に閉会した。実習指導は北里大学薬学部薬物治療学Ⅳの教員7名が中心となり、実習補助者として薬学卒業研究配属中の5年生2名に協力いただいた。



「救急処置の基本」に関する講義(▲写真左)と「胸骨圧迫とAEDの取扱い」の実技講習(▲写真上・右▶)は、救急部隊員2名に担当いただいた。

講習会終了時にアンケートを回収し集計した(回収率100%)。概要は以下の通りである。

- 参加者の年齢分布は50代が46%、40代が29%で全体の75%を占めた。20代は1名であった。
- 職業分布は半数の21名(51%)が薬局勤務薬剤師であり、病院またはクリニック勤務薬剤師も10名(24%)含まれていた。また、薬局経営者も3名参加していた。
- 講習会への参加理由は、約80%が「自分の勉強のため」と「今後、薬剤師に必要な知識と技能だから」と回答した。
- 救命処置とAEDの実技講習を初めて受けた人は14名(34%)、フィジカルアセスメント講習会を初めて受けた人は25名(61%)で、ファシリテーター以外の参加者のほとんどが、フィジカルアセスメントやバイタルサイン実技の初心者であった。
- 「講習会に満足した」は31名、「ほぼ満足した」は9名、「未回答」が1名であった。満足した理由の多くが、「実技や実践優先の講習内容であったこと」、「実際に人に触れ、器具にふれ自分自身が体験できたこと」、「何回か繰り返して体験できたこと」などをあげており、実技講習を優先することの重要性を再認識できた。
- 受講者の実技習得度は、「できるようになった」と自己評価した受講者が多かった順に、脈拍測定30名(73%)、救命救急処置28名(68%)、瞳孔反射確認25名(61%)、血圧測定20名(49%)であった。胸部聴診は8名(20%)が「できるようになった」と回答したが、30名(73%)は継続的練習が必要であると感じていた。
- 今回の受講内容の今後の活用場所については、71%が在宅医療、54%が薬局でと回答し、10名の病院薬剤師のうち9名は病院で活用できると回答した。具体的には「患者の急変時に対応したい」という回答が76%に及んだ。

